

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	統括部局：教務部	担当部局：教務部
大項目	6 教育内容・方法・成果 《全学的な視点》	
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針	
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。	
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示	
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示	
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。	
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法	
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。	
要素		

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 関西学院大学の学生に身につけさせたい知識や能力を「KG学士力」として定義する。	→「KG学士力」の定義	B	A			
2. 「KG学士力」に対応した教育目標や学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を明示、公表する。	→教育目標、学位授与の方針、教育課程の編成・実施方針の決定、公表	C	B			
3. 「KG学士力」の質を保証するための仕組みを構築する。	→質保証するための仕組みの構築	C	C			
4. 「KG学士力」の質が保証できているかを検証するシステムを構築し、明示する。	→検証システムの構築、明示	C	C			
			☆			
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
なし	→なし					
なし	→なし					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.1.1	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
	(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 明示している <input checked="" type="radio"/> 明示していない
	(学位授与方針) 2011年4月末時点で、神学部、社会学部、人間福祉学部が学位授与方針を決定し、教務委員会で報告された。方針内容は当該学部の進捗状況報告を参照。
	(説明) 学部が教育目標（学則別表に定める「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」）に基づき、学位授与の方針を2011年7月の教務委員会で報告できるよう定めることが決定している。現段階では3学部が決定し報告された。その他の学部も予定どおりに設定するよう検討を進めている。これにより、各学問分野における学位の授与にあたり修得している学習成果が明確になる。 また、関西学院大学としての学位授与方針は定めないが、学部の学位授与方針を設定する際の指針となる、関西学院大学の学生が共通して身につけておくべき知識・能力として「KG学士力」を定めることとし、2011年3月の教務委員会で定義案が承認された。KG学士力に示された具体的な要素をもとに、各学部が学問分野の専門性と個性を生かした学位授与方針を設定することになる。参考として「KG学士力」提議案を以下に示す。（6月大学評議会で承認予定） <KG学士力（案）> “Mastery for Service”を体現する世界市民をめざし、キリスト教主義教育をとおして、世界への視野、幅広い知識、深い専門性、豊かな人間性と自らを律する強さを身につけ、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くために貢献しつづける力 (具体的要素) 1. [関心・意欲・態度] 自律的な態度と社会に貢献しようとする姿勢 ・自らを律する強さを持ち、他者と協力してよりよい人間関係や社会を築くための基本的な態度を身につけている。 ・世界への視野をもって、社会への深い関心を抱き、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。 2. [知識・理解] 幅広い知識と深い専門性 ・社会、文化、人間、自然についての幅広い知識と、多角的な視点を身につけている。 ・専攻分野の知識を体系的・構造的に理解し、その分野に固有の視座や思考方法を身につけている。 3. [技能・表現] 実践的な学習技能とコミュニケーション力 ・情報収集力、データ分析力、論理的思考力、表現力などの技能を身につけている。 ・日本語と特定の外国語をもちいて、他者と円滑にコミュニケーションできる力を身につけている。 4. [思考・判断] 課題解決のための総合的思考・判断力 ・現代社会における課題に取り組むための課題発見力、創造的思考力および課題解決能力を身につけている。 「KG学士力」は、キリスト教主義に基づく本学の学部教育、それらを補完する全学科目によって育まれるとともに、学生生活（正課外教育や課外活動等）を通してさらに深化・強化されるものである。また、各学部のディプロマ・ポリシーは上記の「具体的要素」をもとに、各学部の専門性と個性を生かして別途設定される。
6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。	
(方針明示の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 明示している <input checked="" type="radio"/> 明示していない	
小項目6.1.2	(教育課程の編成・実施方針) 2011年4月末時点で、神学部が教育課程の編成・実施方針を決定し、教務委員会で報告された。方針内容は当該学部の進捗状況報告を参照。 (説明) 学位授与方針と同じく、教育課程の編成・実施方針を2011年7月の教務委員会で報告できるよう定めることが決定している。現段階では1学部が決定し報告された。その他の学部も予定どおりに設定するよう検討を進めている。これまでは具体的な教育課程（授業科目の配置や必修・選択の区分、単位数等）のみ明示されてきたが、今後はその編成・実施方針をあわせて明示することとなる。
小項目6.1.3	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。 (周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 周知・公表している <input checked="" type="radio"/> 周知・公表していない (説明) 教育目標として学部または学科ごとの「人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的」を学則別表に定め、大学ホームページの「履修・学習要覧 Webサイト」において公表している。また、学部・学科のDP（学位授与の方針）・CP（教育課程の編成・実施の方針）は、現時点では神学部のみ神学部のページで公表している。『KG学士力』は6月大学評議会で承認後、DP、CPは全部揃う予定の2011年7月教務委員会後に、まとめて大学ホームページで公表する。 また、2012年度に向けて、受験生向けには案内誌に、在学生向けには各学部の「履修心得」に掲載し、周知を図る。
小項目6.1.4	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input type="radio"/> 検証している <input checked="" type="radio"/> 検証していない (説明) 教育目標は学則別表に明示されているが、DP、CPの2つの方針は明示されておらず、定期的にそれらの適切性を検証することは今後の課題となる。卒業要件や教育課程は各学部で継続的に見直しが行われているため、その都度、教育目標や2つの方針にも見直し内容が反映されることになるが、定期的に検証する仕組みの検討も必要である。
その他	

《評価指標データ》

カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度

必修・選択ごとの開設授業科目数

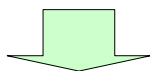
系列別卒業必要単位数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	各学部の学位授与方針は遅くとも2011年7月の教務委員会に報告できるよう決定することが教務委員会で承認されており、その時点で明示することができる。また、学位授与方針の設定の際の指針となる、関西学院大学の学生が共通して身につけておくべき知識・能力として「KG学士力」の定義案が2011年3月の教務委員会で承認された。(6月大学評議会で最終承認予定)
小項目6.1.2	各学部の教育課程の編成・実施方針は、学位授与方針と同じく、遅くとも2011年7月の教務委員会に報告できるよう決定することが教務委員会で承認されており、その時点で明示することができる。
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	



《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	未決定の学部が予定どおり学位授与方針を設定できるよう、教務委員会での情報共有を行う。
小項目6.1.2	未決定の学部が予定どおり教育課程の編成・実施方針を設定できるよう、教務委員会での情報共有を行う。
★小項目6.1.3	
小項目6.1.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	小項目6.1.1、6.1.2の推進を図り、並行して周知および広報について検討を進める。
小項目6.1.4	小項目6.1.1、6.1.2の推進を図り、並行してその適切性の検証を定期的に行う仕組みについて検討を進める。
その他	



《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.1.1	
小項目6.1.2	
★小項目6.1.3	各学部のDP、CPの決定後、大学ホームページの当該ページに掲載するとともに、KG学士力とともに全部をまとめてホームページに掲載する。また、2012年度に向けて、入試案内誌、履修心得に掲載し周知を図る。
小項目6.1.4	各学部のDP、CPの決定後、教育目標とDP、CP、また教育課程とCPの整合性、それらの適切性を定期的を検証していく仕組みの具体案を教務部で立案する。
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○「KG学士力」が定義され、小項目6.1.1と6.1.2について進展が見られます。小項目6.1.3, 6.1.4の進捗が期待されます。
 ○大項目6について、全学の報告を見たときに、「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」という表現を用いている部局と、「学位授与方針」等の表現を用いている部局があります。「3つのポリシー」を全学的に策定したのであれば、（カタカナ語を多く使うのがよいわけではありませんが）概念を明確化させるために、用語を統一したほうがよいのではないかと思います。（やや個人的な意見かもしれませんが）

【学内委員】

○「KG学士力」の定義案の作成、各学部におけるDP、CPの設定の検討の進展など、目標に向かっての着実な進展が窺われます。
 ○各学部でのDP、CPの決定が出揃ってすぐにホームページに公表するとありますが、事柄の重要性を考えるとやや拙速に過ぎないでしょうか。「KG学士力」との整合性の検討や、学部間での表現の調整などの時間的な余裕が必要ではないでしょうか。
 ○定義された「KG学士力」が空文化しないためには、目標3の「KG学士力」の質保証の仕組みの構築が重要となりますが、それについて具体的な言及が乏しいように思います。
 ○「KG学士力」の定義は承認されましたが、それがどの程度周知され浸透しているかを検証することが必要ではないでしょうか。そのことを基礎として、「KG学士力」の質を保証する仕組みの構築や質の保証を検証するシステムの形成が為される必要があります。
 ○小項目6.1.1、6.1.2の次年度に向けた方策として、「未決定の学部が予定どおり設定できるよう教務委員会での情報共有を行う。」とありますが、次年度（2011年度）に全ての学部のDP、CPを公表できるように努めていただきたい。そしてその内容をさらに深化させる質保証の仕組みに取り組んでいただきたい。
 ○的確で丁寧な記述です。
 ○着実に、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の設定に取り組まれています。
 ○周知、公表は「学校教育法施行規則改正に伴う教育情報の公表」にも関連しますので、積極的な公表が求められます。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・小項目6.1.4については大変検証が難しいと思いますが、定期的な検証がなければ改善に結びついていきません。定期的な検証を促す案内を行なうなどシステムの構築をお考えください。目標の4の実現が期待されます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.1.1

基盤評価：「課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件（卒業要件・修了要件）等を明確にした学位授与方針を、理念・目的を踏まえ、設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.2

基盤評価：「学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を設定していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.3

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること」

達成度評価：なし

○小項目6.1.4

基盤評価：なし
 達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

・情報の公表促進の観点から、DP、CPは決定後速やかな学内外への公表を予定している。公表後も既に公表済みのAPとの整合性、他学部との表現の調整について各学部において検討の上、適宜修正の可能性はある。

★ 学部でのカリキュラム・マップ作成に伴い、DP、CPの具体化や検証が今後進行する。KG学士力についても同期して検証する仕組みを設定する必要がある。